

日本高血圧学会プレスセミナーのご案内

—主催 特定非営利活動法人 日本高血圧学会 —

〈開催趣旨〉

第1回日本高血圧臨床フォーラムが、平成24年5月12-13日、千里ライフセンター(大阪)で開催されます。今まで日本高血圧学会では、秋に高血圧学会総会を行ってきましたが、高血圧診療の重要性が益々明らかになってきたことから、本年より、臨床により重点をおいた、臨床フォーラムを春に開催することになりました。本プレスセミナーでは、ガイドラインや新しい高血圧治療など、本フォーラムにおけるトピックスについて、フォーラム会長が解説いたします。また、最近新しい高血圧治療として、世界的に注目されている、腎交感神経アブレーションについて、担当理事が解説します。他には、学会の取り組みや5月17日の「世界高血圧の日」についても解説いたしますので、多くのメディアの方に出席していただきたいと思っております。

【日時】 平成24年5月12日(土) 10:45~11:45 ※1時間程度を予定

【場所】 千里ライフサイエンスセンター 7階 会議室701
※5Fの総合案内にお立ち寄り後、7F会場にお越しください。
大阪府豊中市新千里東町1丁目4-2

アクセス <http://www.senrilc.co.jp/access/access.html>

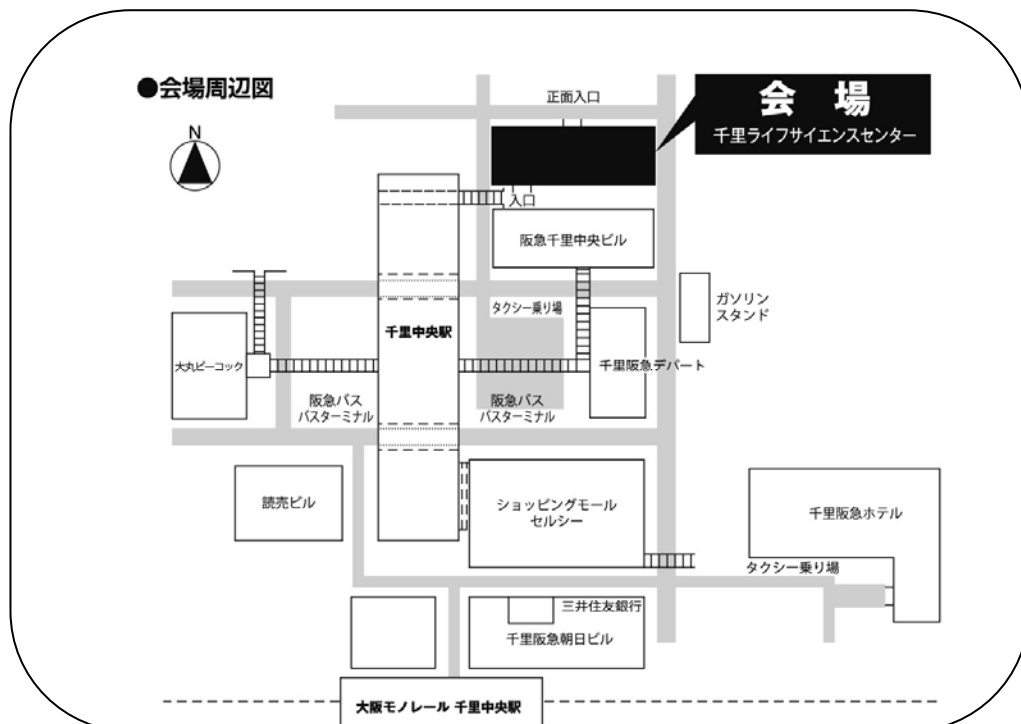
【申込みについて】

別添の申込書に必要事項をご記入の上、FAX03-6801-9787にて(もしくはメール添付でoffice@jpnsh.org)申し込みをお願いします。

申込期限 平成24年5月7日(月)

※当日は名刺をご用意ください(7階会場入り口でも名刺を頂戴します)

本件掲載サイト <http://www.jpnsh.org/press.html>



【プログラム】

◆司会 小室一成 / 日本高血圧学会 広報委員会委員長

1. 日本高血圧学会の取り組みについて (5分)

島田 和幸 / 日本高血圧学会 理事長

自治医科大学 循環器内科学部門 教授

1978年に設立した日本高血圧学会は、現在約4300名の会員を擁し、学会の高血圧専門医制度によって認定された専門医は540名を数えています。年一回秋の学術総会(今年度は名古屋で開催)に加えて、今年から春に高血圧臨床フォーラムとして、会員や全国の高血圧に従事する医師、薬剤師、栄養士などに向けて、最新の高血圧に関する臨床情報を共有することになりました。その他、高血圧学会の目下の取り組みをご紹介します。家庭血圧測定の標準化と普及、減塩対策や高血圧治療ガイドラインの改訂準備、そして韓国や中国などアジアとの連携や欧米との学術講流にも力を注いでいます。

2. 世界高血圧の日について (5分)

小室 一成 / 日本高血圧学会 理事

大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授

5月17日は日本高血圧学会が加盟している、世界高血圧リーグが制定した世界高血圧デーです。日本高血圧学会では第30回高血圧総会にて同日を“高血圧の日”と制定することを宣言致しました。今年度「高血圧はサイレントキラー」をキャッチフレーズに、高血圧治療の重要性を訴えていきたいと考えています。

3. 日本高血圧学会 第1回臨床高血圧フォーラムの開催にあたって (15分)

楽木 宏実 / 日本高血圧学会 理事 (第1回臨床高血圧フォーラム会長)

大阪大学大学院医学系研究科 老年・腎臓内科学 教授

「臨床高血圧フォーラム」は、臨床重視の学会として高血圧学会が新たに企画したもので、第1回を5月12日～13日に大阪で開催します。5月17日の「世界高血圧デー」にも近く、高血圧の早期発見や早期治療に関する市民公開講座も同時開催します。

企画について、札幌医科大学学長の島本和明先生の「臨床高血圧学の展望」と題した特別講演のほか、「生活習慣病関連学会ガイドライン検証」、「ハイコオリティ降圧治療を目指す」、「高血圧治療の新展開」などのシンポジウム、「原発性アルドステロン症診断における静脈サンプリング」の実技セッション、212題の一般公募演題の発表などがあります。公募演題では、地域密着型臨床研究などフォーラム独自の企画をしました。

学問的に実証された臨床を実践し、その学問をさらに発展させるべく研究するという臨床的な学問を意識した「臨床高血圧学の実践と発展」というテーマに相応しい学会になることを期待しています。

4. 新しい高血圧治療としての腎交感神経アブレーション (10分)

木村 玄次郎 / 日本高血圧学会 理事

名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 教授

最近、腎動脈を介するカテーテルによって腎交感神経系を焼灼切断する新しい治療法(腎交感神経アブレーション)が開発された。

利尿薬を含む3種類以上の降圧薬を服用しても収縮期血圧が160 mmHg未満にコントロールできない治療抵抗性高血圧患者を対象に腎交感神経アブレーション治療したところ、1ヵ月の時点で収縮期/拡張期血圧は平均14/10 mmHg低下し、3か月の時点で21/10 mmHgまで低下、1年後まで降圧効果は徐々に増強し、その後はほぼ一定であった。

長期的な安全性と降圧効果が確認され、その臨床応用が軽症の本態性高血圧症に適応拡大されれば、非薬物療法による根治や予防が可能な時代が到来すると期待される。また、腎不全や心不全の進行抑制など臓器保護にも有用な可能性が予測されている。正に、高血圧治療は、これまでの薬物療法とは異次元の新しいステージに突入しそうな気配を感じさせる。

5. 質疑応答 (10分)

FAX : 03-6801-9787 日本高血圧学会事務局 行

返信期限 5月7日(月)

E-mail:office@jpnsh.org

FAX 送信用紙 (申込書)

日本高血圧学会 プレスセミナー

日時 : 2012年5月12日(土) 10:45 ~ ※1時間程度を予定
場所 : 千里ライフサイエンスセンター7階 会議室 701
*5階の総合案内に立ち寄り後、会場へお越しください。
大阪府豊中市新千里東町1丁目4-2

出席 ・ 欠席

※ご出席の場合、当日は名刺をご用意ください。
※会場入り口でも名刺を頂戴します。

※氏名 _____

※貴社名 _____

※媒体名 _____

該当に○を付して下さい。

(新聞 ・ 雑誌 ・ ネット ・ テレビ ・ ラジオ ・ その他 ())

※TEL _____

E-Mail _____

◎次回、セミナーの連絡を希望 (する ・ しない)

要望などございましたら、ご記入ください。

ご欠席で、資料送付希望の場合、下記欄を明確にご記入ください。

【送付先】

住 所※ 〒 _____

名称/部署※ _____

氏 名※ _____ 様